

## IAEA核セキュリティ国際会議 日本政府代表演説

議長，事務局長，御列席の皆様，

日本国政府を代表して，IAEA主催の第2回核セキュリティ国際会議が開催されることを歓迎するとともに，貴議長が本会議のために払われた御尽力に対し，心より感謝の意を表します。

核テロの脅威は依然として，国際社会の安全保障に対する最大の挑戦の一つであり，原子力施設への攻撃を始めとするその潜在的な脅威は継続的に増大し続けています。さらに，北朝鮮が，本年に入ってから2回の核実験を強行するとともに，弾道ミサイルを繰り返し発射するなど挑発行動を繰り返していることは，国際的な安全保障及び不拡散体制への重大な挑戦であり，新たな段階の脅威です。11月30日に新たに採択された第2321号を含む関連する国連安保理決議の厳格な履行を通じ，国際社会が北朝鮮に対する圧力を一層強化することが重要です。

2010年に始まった核セキュリティ・サミットは，核セキュリティに対する国際社会の関心を高め，様々な取組が進展しました。今後はIAEAが国際的な核セキュリティ強化の取組で中心的役割を果たし，その成果を引き継がなければなりません。

我が国は、引き続き、天野事務局長のリーダーシップの下で I A E A の核セキュリティに関する規範形成や計画策定等の活動の継続・強化が必要と考えております。この観点から、日本政府は天野事務局長の再選を支持しており、今後も最大限の支援を行っていきます。

その一環として我が国は、東南アジアを中心とした核セキュリティ強化のための人材育成や支援など、I A E A の活動に協力していきます。加えて、「核物質防護条約（C P P N M）の改正」の普遍化への貢献や、昨年 2 月に受入れを行った I P P A S ミッションのフォローアップの実施についても努力を惜しみません。

また、我が国は 2 0 2 0 年に、東京にて、オリンピック・パラリンピック競技大会を開催します。テロ対策強化のため、日本は、大規模国際行事の核テロ対策に知見を有する I A E A と協力を行っていく考えです。

核物質の最小化と適正管理に関し、日本は先般の核セキュリティ・サミットでのコミットを着実に実施していきます。

日本は一貫して民生用原子力の透明性の向上について世界をリードしてきました。それは、日本が I A E A の厳格な保障措置を履行し、全ての核物質に対する適正な管理を徹底しており、特にプルトニウムに関しては毎年、詳細な報告を I A E A を通じて公表することにより、高いレベルの透明性を確保してきていることに象徴されています。

日本は、アジア初の核セキュリティ強化のための拠点である「核不拡散・核セキュリティ総合支援センター」(ISCN)を通じて、国際的な人材育成・能力構築支援のリーダーとしてこれまで取組を続けてきました。ISCNは、研修コースにこれまでの5年間に約3,100名以上の専門家を受入れ、また、IAEA加盟国の、核セキュリティ強化のためのセンター(COE)間ネットワークの協力促進にも貢献しています。

日本は、国際社会の核セキュリティに関する議論の進展にも尽力してきました。本年はG7議長国として、また、「大量破壊兵器・物質の拡散に対するグローバル・パートナーシップ(GP)」の議長国として、積極的に関係国の議論をリードし、世界の核セキュリティ強化を促進しました。来年6月には「核テロに対抗するためのグローバル・イニシアティブ(GICNT)」の全体会合を、共同議長である米国及びロシアと協力して開催し、引き続き、本分野における主導的役割を果たしていきます。

また、日本は、主導国として、核セキュリティ・サミットの輸送セキュリティ・ギフト・バスケットをIAEAのINF CIR C文書化し、新たな共同提案国を歓迎します。

我が国は、原子力の平和的利用を最高水準の透明性をもって行い、国際的な信頼を獲得してきました。日本は国内及び国際的な核セキュリティ強化を更に進めると共に、IAEA及び国際社会の活動を支持していきます。

(了)